

令和7年度 英語科及びデジタル科実施状況について

(別紙2)

金沢市立南小立野小学校

①児童アンケート

(1)英語科(小学校5年生:令和8年1月実施) (%)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	無回答
問1	英語科の勉強が好きだ。	23.0	40.0	32.0	4.0	1
問2	英語科の勉強は大切だ。	68.0	26.0	5.0	1.0	0
問3	英語科の授業の内容が分かる。	44.0	43.0	10.0	2.0	1.0
問4	先生や友達に英語で質問することができる。	16.0	54.0	23.0	7.0	0.0
問5	先生や友達の英語の質問に英語で答えることができる。	14.0	47.0	28.0	11.0	0.0
問6	アルファベットの大文字が書ける。	64.0	28.0	6.0	2.0	0.0
問7	アルファベットの小文字が書ける。	68.0	29.0	2.0	1.0	0.0
問8	教科書やピクチャーディクショナリーの単語や英文を書き写すことができる。	46.0	31.0	22.0	1.0	0.0
問9	教科書の単語や英文を読むことができる。	28.0	36.0	29.0	7.0	0.0

(2)デジタル科(小学校1～6年生:令和8年3月実施)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば そう思う	そう思うわない
問1	自分やみんなのことを考えてICTを使うことができる。	59.2	27.7	11.0	1.4	0.7
問2	生活の中で上手にICTを使うことができる。	61.7	22.3	13.4	2.1	0.5
問3	深く広く学習するためにICTを使うことができる。	57.5	25.6	13.6	2.8	0.5

②指導改善の具体策

【英語科】 英語科アンケートの結果では、「英語科の勉強は大切だ」と回答した児童が94%、「授業の内容が分かる」と回答した児童が87%と高い割合を示しており、英語学習の意義を理解しながら学習に取り組んでいる様子がうかがえる。 また、アルファベットの読み書きについては、大文字92%、小文字97%の児童が肯定的に回答しており、基礎的な力の定着が見られる。一方で、「英語で質問する」「英語で答える」といったコミュニケーション面では肯定的評価がそれぞれ70%、61%にとどまっており、今後は英語を使ってやり取りする機会を充実させ、表現力やコミュニケーション能力の向上を図ってきたい。
【デジタル科】 デジタル科アンケートでは、「自分やみんなのことを考えてICTを使うことができる」が86.9%、「生活の中で上手にICTを使うことができる」が84.0%、「深く広く学習するためにICTを使うことができる」が83.1%と、いずれも高い肯定的評価となった。ICTを適切に活用する意識や技能は着実に育っている。一方で、ICTを単なる調べ学習や情報収集の手段として終わらせるのではなく、情報を比較・分析したり、自分の考えを表現・発信したりする活動を充実させることで、探究的な学びにつながるICT活用を一層推進していく必要がある。

③学校関係者評価

・「アルファベットを書くことができる」と考えている児童の割合が非常に高い。一方で「英単語や英文を読むこと」や「英語で質問をしたり答えたりすること」に対する肯定的な回答が低い。そのため、アルファベットカードを使って英単語を作って読んだりアルファベットカードをやりとりしたりする活動を増やしていくとよい。 ・「英語の勉強が好きだ」という回答が高くない。そのため、英語を使って友達や先生とコミュニケーションをとることの楽しさを実感できる授業を構築していくことで、英語を使うことへの抵抗感を軽減し、楽しみながら英語を学習する経験を積ませていくとよい。 ・ICT活用が進む中で、SNSの正しい使い方や適切な付き合い方について、学校ではどのような指導を行っているのか関心がある。情報モラル教育を継続的かつ前向きに推進するとともに、その取組内容を保護者にも積極的に周知し、家庭と連携しながら児童の健全なICT活用を支えてほしい。
